

ちば里山カレッジ「里山ボランティア養成コース」実施報告書（8）

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「里山ボランティア養成コース」 第 8 回最終講義&卒業式 講義 「千葉県の森林と里山活動」
日時	平成 27 年 9 月 26 日（土） 9：00～15：00
講師	9：00～ 9：15 オリエンテーション 9：15～11：45 講義 ちばの里山の生物多様性と将来展望 千葉県立博物館 主任上席研究員 尾崎 煙雄 13：30～15：00 卒業式 <式次第> 1 開式のことば 2 理事長兼学長式辞 3 卒業証書・修了証書授与 4 来賓祝辞 5 来賓紹介 6 卒業生のことば 7 閉式のことば
会場	千葉市ビジネス支援センター多目的室（千葉市きぼーる 15 階）
出席者	受講生 42 名（欠席 9 名）・主催者 5 名・スタッフ 2 名 ご来賓 千葉県環境財団 業務部環境活動支援課 顧問 柴崎 郁夫 千葉県農林水産部森林課 副主査 増田 美幸
報告	9：15～11：45 講義「ちばの里山の生物多様性と将来展望」 千葉県立博物館 主任上席研究員 尾崎 煙雄 里山を象徴する生きもの「カエル」と遊んだ経験を問う 16 年前の調査によると、年代が若くなるに従って遊んだ経験は減少する。1960 年代以降、里山が利用されなくなったことの表れではないか。 生物多様性を巡る 4 つの危機の中に里地・里山の手入れ不足が掲げられる。住宅地や工業団地の造成など開発や乱獲、外来種の持ち込み、地球規模の環境変化も挙げられる。 生物種を護るために人間はどこまで介入してよいのかという受講生の質問に対し、尾崎講師は里山の主役は生きものか人間のどちらなのか答えはないのでは？と投げ返した。 12：00～13：15 （昼食休憩） 13：30～15：00 卒業式 <式次第> 1 開式のことば 2 理事長兼学長式辞 3 卒業証書・修了証書授与 4 来賓祝辞 5 来賓紹介 6 卒業生のことば 7 閉式のことば 卒業式は高橋副理事長の開式のことばに始まり、金親理事長は、「できる人ができるときにできるだけのことをする」とのテーマを式辞とし、千葉県環境財団顧問柴崎氏は草刈り鎌の研ぎ方は使う人、場によって異なることに着目し、カレッジで学んだ技術を活用して自分なりの里山実現を願うと祝辞を贈った。 卒業証書・修了証書が授与されると受講生は深々と頭を垂れ感慨深げに証書を受け取る姿が印象的だった。受講生を代表して永島美津子さんは「著名な講師の方との出会いの場を作ってくれたことに感謝したい」とお礼のことばを述べ、卒業式が終了した。

添付資料（写真）



尾崎講師



ちばの里山の現状



誰にとっての環境か？



高橋副理事長の開式のことば



金親理事長挨拶



卒業証書授与



修了証書授与



来賓のことば



卒業生のことば



卒業生・修了生の皆さんと